

受賞校一覧及び各県からの推薦状況表

散乱防止活動部門最優秀校

●文部科学大臣奨励賞	和歌山県	和歌山市立大新小学校
●農林水産大臣賞	茨城県	大子町立黒沢中学校
●環境大臣賞	山形県	小国町立白沼小中学校
●協会会長賞	大分県	竹田市立直入中学校

リサイクル活動部門最優秀校

●文部科学大臣奨励賞	熊本県	水俣市立水俣第一中学校
●農林水産大臣賞	青森県	七戸町立七戸中学校
●環境大臣賞	群馬県	高崎市立箕郷東小学校
●協会会長賞	鳥取県	琴浦町立赤崎中学校

第10回 特別賞

●北海道	鹿追町立 笹川小学校	●岩手県	遠野市立 綾織中学校
●山形県	酒田市立浜中小学校	●福島県	会津若松市立 鶴城小学校
●茨城県	鉾田市立旭北小学校	●群馬県	渋川市立 南雲小学校
●滋賀県	東近江市立愛東北小学校	●兵庫県	加東市立 東条東小学校
●奈良県	奈良市立月ヶ瀬中学校	●福岡県	北九州市立 曽根東小学校

●本年度の各県からの推薦状況

	散乱防止部門	リサイクル部門	計
小学校	22	23	45
中学校	18	16	34
計	40	39	79

●本年度審査結果

	散乱防止活動部門	リサイクル活動部門	合計
最優秀校	4	4	8
優秀校	6	6	12
優良校	30	29	59
第10回特別賞	10		10



食環協 ニュース114

●編集/発行 社団法人 食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16田町K-Sビル6階 電話03-5439-5121
ホームページ <http://www.kankyobika.or.jp>

第10回環境美化教育優良校等表彰式が挙行される

1月29日(金)東京プリンスホテル「マグノリアホール」で第10回の環境美化教育優良校等表彰式が行われ、多数の関係者の出席のもと、最優秀校として8校、第10回記念の特別賞として10校が表彰されました。

この表彰は当協会が平成12年度から実施しており、環境美化教育に独創的、継続的に取り組み、公共の場所の美化、飲料空き容器等のリサイクルを実践している小中学校等を都道府県の推薦に基づき表彰するもので、今回は全国47のすべての都道府県から「散乱防止部門」について40校、「リサイクル部門」について39校、計79校の推薦がありました。この79校の中から審査会による厳正な審査の結果、このたび8校の最優秀校が選定されたものです。最優秀校にはそれぞれの部門について文部科学大臣奨励賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、当協会会長賞として賞状と副賞が授与されました。

また、今回は第10回の記念として特別賞を設け、第1回から第5回の受賞校の中から引き続き環境美化活動を実施し、顕著な成果を上げている学校10校を選定し、記念の楯と副賞が授与されました。

なお、最優秀校以外の優秀校12校、優良校59校についてはそれぞれ各地域において表彰が行われます。

最優秀校の活動概要は3~7ページ、受賞校、各県からの推薦状況等は8ページをご覧ください。



挨拶する筑紫会長



特別賞を受賞されたみなさん

「来賓の方々から励ましの貴重なお話」

賞状授与の後、審査委員長小澤紀美子氏（東海大教授）、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官大倉泰裕氏、農林水産省総合食料局食品産業振興課長高橋孝雄氏、環境省大臣官房リサイクル推進室長上田康治氏から審査総評、祝辞として、受賞した児童生徒を励ます貴重なお話がありました。

小澤審査委員長は、10年にわたる審査委員長としての経験を踏まえ、次のように話されました。



小澤紀美子氏

本番となる活動なのか、活動の意味、大切さなどをこの機会に考えてほしいと児童生徒に訴えました。

農水省の高橋課長は、散乱防止、リサイクルに関連する問題として年間500万トンから900万トンに上るという食品ロス（食べられずに廃棄される食品）の問題を取り上げ、小さな努力の積み重ねによって食品ロスも減らすことができるというヒントを提供、活動の取り組み範囲の拡大への期待を表明しました。

環境省の上田室長は、初代の環境教育係長としてジャングルでの鳥の声、獣の声の録音を聞き、生物多様性を実感したという経験を話され、知識ではない「わかった」という実感から行動が始まると語り、知識を身につける努力もしながら、自信をもって活動を続けてほしいと児童生徒を励ました。

なお、当日は東海道新幹線の架線事故により最優秀校1校、特別賞1校が表彰式に間に合わないというハプニングがありましたが、表彰式後に開かれた懇談会の場に到着し、その会場で表彰状の授与が行われました。

（文責：食環協田中）



写真左から 上田康治氏、高橋孝雄氏、大倉泰裕氏

○みんなの活動を見てきて「継続とは力なり」を強く感じる、みなさんの活動が

地域の人たちに「頼もししさ」を与えていた（司馬遼太郎が人の生き方として高く評価している）、その「頼もししさ」が地域の人たちの参加、協力につながってくる、それがみなさんの学びの深まりになる。

○みんなは活動を通じてごみという見えるものから見えないものをたぐりよせている。それはエネルギー、地球、生き物といったものとの「つながり」の感じであり、その感じを獲得することが、環境に関する事を単なる知識にとどめず、責任ある行動に結びつけるということを学んでいる。

○「努力する人は希望を語る」という井上靖の言葉がある。みなさんの活動が希望を語り、未来を語っている。活動を通じて学び方を学び、生きる力をつけ、単なる受験学力ではない多角的に学ぶ力をつけている。

○環境教育とは、人と人、人と自然、人と地域、人と世界、人と歴史といった関係性の再構築である。

文部科学省の大倉教科調査官は、「持続可能な社会」という環境教育上のキーワードは裏返せば社会の先行きがあぶないという危険性の指摘であるとし、環境美化活動は卒業で終わっていい活動なのか、卒業してからこそ

～最優秀校の活動概要～【散乱防止活動部門】

文部科学大臣奨励賞 和歌山県 和歌山市立大新小学校

「6年生のリーダーシップで公園美化・たてわりなかよし活動」

和歌山市立大新小学校は、異学年の子どもたちがチームを作り、6年生のリーダーシップのもとに、大新公園をはじめとする学区内の公園の美化奉仕活動を継続実施しているという特筆すべき教育実践「たてわりなかよし活動」を展開している。6年生を中心となり、低学年に清掃の手順や方法を指導し、ごみの分別作業も実施している。

活動の対象となっている大新公園をはじめとする公園は、地域住民の憩いの場であり、児童の遊び場でもあり、活動による散乱防止効果により地域住民の評価も高いものがあり、地域住民の主体的な活動参加も生み出しており、平成19年には和歌山市長から市の「美しいまちづくり運動」への深い理解及び地域社会の美化に尽くしたことにより感謝状が授与されている。

児童には、活動を通じて自分たちの住む地

域の美化意識の高まり、自分たちの生活の見直し、規範意識の醸成等が見られ、さらには大新公園を中心に季節の生き物、草花調べともつながっている。

これらの活動は、環境美化教育のまさにねらいとするところであり、児童の社会奉仕・地域貢献の意識の涵養に資するところも大きく、さらに本活動において異学年交流を図っている点に教育的意義は高いと評価され、全審査委員により環境美化教育・散乱防止活動部門最優秀校として文部科学大臣奨励賞に相応しい活動として認められた。



農林水産大臣賞 茨城県 大子町立黒沢中学校
「全校生徒による県最高峰の清掃登山」

茨城県大子町立黒沢中学校は、昭和34年以来の長期にわたって地域のシンボル・県の最高峰である八溝山の全校生徒による清掃登山を継続実施してきた。八溝山登山口から山頂までの登山道及びその周辺を対象にしたこの活動は、長期継続により伝統行事化するに至っている。また、環境美化に貢献するのみならず、登山客のマナー向上にも効果を上げている。

この活動は、夏季休業中の地域へのプランター配置活動、秋の腐葉土作りも兼ねた落ち葉さらい活動とも併せて地域の環境美化に貢献し、観光事業への功績によって地元観光協会からの表彰も受けている。

また、この活動を通じて自然愛護、廃棄物発生抑制、資源の再利用等の意識醸成、実践的態度の育成が図られており、生徒にゴミ散乱防止意識の高揚、学校の環境美化への意欲的取組みが見られる。

これらの活動は、散乱防止活動の実施のみならず、広く環境問題全般にわたる教育につながっており、また、生徒の社会奉仕・地域貢献の意識の涵養に資するところも大きく、地域全体への広がりのある活動として評価され、全審査員により環境美化教育・散乱防止活動部門最優秀校として農林水産大臣賞に相応しい活動として認められた。



環境大臣賞 山形県 小国町立白沼小中学校
「きれいな玄関口で人々を迎えようという郷土愛」

小国町立白沼小中学校は、昭和46年以来の長期にわたって、町内通過の国道113号線沿い及び当該国道から学校までの県道をその活動エリアとして、清掃活動を継続してきた。そもそもは、国道開通に伴い、町の玄関口としての国道をきれいにして往来する人々を迎えるという郷土への思いの高まりから活動が開始され、その後、活動の停滞を許すことなく、毎年工夫を加えながら長期の活動を維持発展させてきた。



清掃活動を単なる清掃活動にとどめず、事前の指導、事後の振り返りを重視し、生徒会活動、全校集会、学級活動等の時間を活用して児童生徒の心を育んできた。また、学校便りによる地域への活動の周知、活動

を通じて作成した「ごみマップ」による地域への情報提供等により、活動について地域から積極的な評価を受けている。

このような活動の成果は、本活動に留まらず、町が実施する町内一斉道路清掃への児童生徒の参加、学校が実施している古紙、牛乳パックの回収活動、節電、節水等の省エネ活動、ナラ枯れ防止活動、河川水質調査等様々な環境教育活動につながることになっていると認められる。

これらの活動は、環境美化教育の実践のみならず、児童生徒の社会奉仕・地域貢献の意識の涵養に資するところも大きく、全国の環境美化教育のモデルとなる取組みと

評価され、全審査委員により環境美化教育・散乱防止活動部門最優秀校として環境大臣賞に相応しい活動として認められた。

協会会長賞 大分県 竹田市立直入中学校
「多彩な清掃活動が地域全体に展開」

竹田市立直入中学校は、年間を通じて、クリーンアップ登校、春の遠足時のごみ拾い、秋の町内親子ボランティア美化活動など多彩な清掃活動を展開している。その活動は、生徒会の立ち上がりからPTAの協力、地域全体で取り組む体制へと発展を示しており、活動の広がりを達成するに当たり学校の取組みの意義は大きいと評価される。

更に空きびん回収、落書き落とし等の活動も実施しており、活動に当たっては保護者、地域、小学校等と連携している。

このような地域と連携した活動を通じて生徒にはごみを捨てない、分別処理の意識が高まるとともに、環境を大切にする意識、身の回りの美化意識が育成されている。

これらの活動は、環境美化教育のまさにねらいとするところであり、生徒の社会奉仕、地域貢献の意識の涵養に資するところも大



きく、教育的意義は高いと評価され、全審査委員により環境美化教育・散乱防止部門最優秀校として教会会長賞に相応しい活動として認められた。

～最優秀校の活動概要～【リサイクル活動部門】

文部科学大臣奨励賞 熊本県 水俣市立水俣第一中学校

「ゴミニケーション」で地域と学校が連携

水俣市立水俣第一中学校は、昭和63年に地域と連携した体験活動として親子リサイクル活動を開始、その活動を継続し、平成14年度からは年2回の実施へと拡充、更には地域全体で行われるごみ分別回収活動にも生徒、職員が参加するという息の長い取組みを行ってきた。その活動は、ごみ分別収集活動を地域とのコミュニケーションに結び付けようとする「ゴミニケーション」と名づけられている。

市の行政区単位で実施されているごみ分別収集活動には、部活動より優先させて生徒が参加、分別収集場所に出向いて活動し、持ち込みごみの多い人、お年寄りに対し生徒が運搬、分別を手伝うといった関係が築かれており、地域と学校との連携という目的は見事に

実現されていると認められる。また、この活動により生徒にごみに対する意識、分別への理解、環境への意識が高まっている。

これらの活動は、環境美化教育のまさにねらいとするところであり、生徒の社会奉仕、地域貢献の意識の涵養に資するところも大きく、教育的意義は高いと評価され、全審査委員により環境美化教育・リサイクル活動部門最優秀校として文部科学大臣奨励賞に相応しい活動として認められた。



農林水産大臣賞 青森県 七戸町立七戸中学校

「長期のリサイクル活動が町の行事化」

七戸町立七戸中学校は、昭和40年代半ばという極めて早い時期から環境問題に目を向け、以来37年間の長期にわたり一度も途切れることなく、全校活動として、ビン類、紙類、段ボール等を対象にリサイクル活動を展開し、その活動は保護者、地域を巻き込み、町の行事化に至っている。

本活動は、総合的な学習の時間の1単元として、年間に1週間の期間を設け、オリエンテーション、回収用具借用、町内広報、回収活動、用具の返却とお礼という一連の活動を生徒が全面的に活動するように計画されてきた。

また町の行事カレンダー、町の広報誌でも取り上げられ、地域住民の意識の高まりにも貢献し、地域住民から活動への協力申し出を受けるに至っている。

本活動が契機となって家庭科、事前オリエ

ンテーションでリサイクルについての学習が行われ、紙の再利用、ごみの削減、ごみの分別への取組みも推進された。

これらの活動は、リサイクルの実践のみならず、広く環境問題全般にわたる教育につながっており、また生徒の社会奉仕、地域貢献の意識の涵養に資するところも大きく、地域全体への広がりのある活動として評価され、全審査委員により環境美化教育・リサイクル活動部門最優秀校として農林水産大臣賞に相応しい活動として認められた。



環境大臣賞 群馬県 高崎市立箕郷東小学校

「いいこと(I)すすんで(S)おこなおう(O)たかさき学校ISOの先導役」

高崎市立箕郷東小学校は、市が平成17年度から市内小学校を対象に取り組んでいる「たかさき学校ISO」という環境活動に参加し、環境教育を意欲的に実施しており、その中でリサイクル活動としてアルミ缶の回収、牛乳パックの回収、インクカートリッジの回収に取り組んでいる。特にアルミ缶回収については毎月1回、年11回の取組みであり、毎月、朝礼、児童集会、校内放送、チラシ等で全校児童に呼びかけ、更に各家庭、近所の人々の協力も得るなど地域への広がりもあり、当日は登校時間を早めて回収を実施するなど、環境教育諸活動の中心となっていると認められる。

同小学校では「たかさき学校ISO」の取組みとして、学習活動と関連付けながら、地球温暖化防止についての正しい理解を進めるべく、

リサイクル活動以外にも節電、節水、ごみ減量化、自然環境保護・保全等に取り組み、その取組みは総合的かつ体系的な取組みと認められる。



これらの活動は、環境美化教育の実践として極めて優れており、全国の環境美化教育のモデルともなる取組みと評価され、全審査委員により環境美化教育・リサイクル活動部門の最優秀校として環境大臣賞に相応しい活動として認められた。

協会会长賞 鳥取県 琴浦町立赤崎中学校

「ペットボトルのユニークな校内再利用」

鳥取県琴浦町立赤崎中学校は、ペットボトルのリサイクル活動において、ペットボトルを回収するのみならず、自ら草花の鉢として校内で大量に再利用し、雨水タンク兼ビオトープ、グリーンカーテンを作成し、冬場には校内渡り廊下にペットボトルハンギングで花を咲かせるというユニークな学校美化活動に取り組んでいる。

この活動は、ペットボトルの効果的再利用の方法を案出し、夏場の照り返しによる暑さの防止、冬場の殺風景の解消、ごみの削減・再利用を図ったものであり、夏場の水やりは部活動単位の当番制で実施するなど、eco委員、生徒会執行部を中心につつも全校生徒で取り組んでいる姿勢がうかがわれる。

本活動は更に、バス停、JR駅への適用、魚網のグリーンカーテンへの再利用など新

たな方面への展開が検討されるなど、他の環境活動への取り組みとも併せて、生徒のごみ問題に積極的に関わる態度の育成にもつながっていると認められる。



これらの活動は、リサイクル活動の実践のみならず、広く環境問題全般にわたる教育につながっており、全国のモデルとなる取組みと評価され、全審査委員により環境美化教育・リサイクル活動部門の最優秀校として協会会长賞に相応しい活動として認められた。